

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-116628

(P2003-116628A)

(43) 公開日 平成15年4月22日 (2003.4.22)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 45 D 33/00

B 65 D 43/18

識別記号

610

640

F I

A 45 D 33/00

B 65 D 43/18

テマコード<sup>\*</sup> (参考)

610 G 3 E 0 8 4

640

審査請求 未請求 請求項の数 2 OL (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願2001-314259(P2001-314259)

(22) 出願日

平成13年10月11日 (2001.10.11)

(71) 出願人

000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72) 発明者

袖原 幸知

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

(74) 代理人

100071283

弁理士 一色 健輔 (外3名)

Fターム (参考) 3E084 AA05 AA14 AA24 AB09 BA01

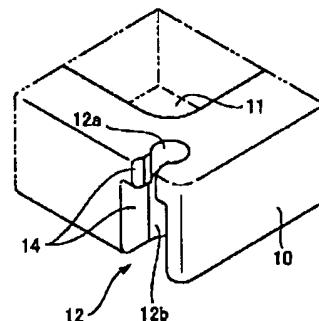
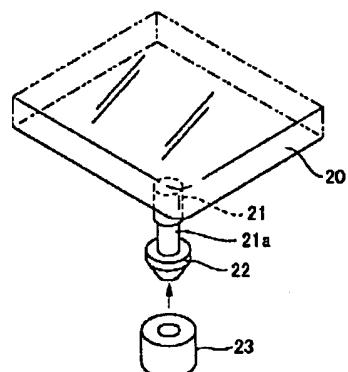
CA03 FA01 GA06 GB06

(54) 【発明の名称】 化粧料容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 簡単な構造により、旋回操作により蓋を閉じたときは内部の気密性を高めることができるとともに、開放時にはフリーストップ性を得られる化粧料容器を提供する。

【解決手段】 蓋体に縦設したピンを容器本体に形成されたピン孔に挿通し、蓋体20を旋回させて開閉する化粧料容器において、ピン21の中間部に小径部21aを形成し、先端部外周にこれより径大である係止部22を一体に形成し、小径部21aの外周に弾性チューブ23を圧入嵌合して前記係止部22により抜け止めする一方で、前記弾性チューブを装着したピン21をピン孔12に圧入して前記係止部22と拡径部12の端面との間に前記弾性チューブ23を圧縮状態に保持した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 蓋体の一側部下面に縦設したピンを容器本体の一側部に形成されたピン孔に挿通し、該ピンを中心として蓋体を旋回させることで、蓋体をすりあわせ状態に開閉する化粧料容器において、前記ピンの中間部に小径部を形成し、先端部外周にこれより径大であって先端側に向けて先細り状に形成された係止部を一体に形成し、予め拡径部の下部より小径部の外周に弾性チューブを圧入嵌合して前記係止部により抜け止めする一方で、前記ピン孔は、ピンが挿通される軸孔と、該軸孔の下部に連続する下部に拡径部と、該ピン孔および該拡径部の側面に連通し、両者の径より小さな間口幅で容器本体の一側部に開口する側面開口部とからなり、該側面開口部より前記弾性チューブを装着したピンをピン孔に圧入して前記係止部と前記拡径部端面との間に前記弾性チューブを上下圧縮状態に保持したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項2】 前記側面開口部形成位置と隣合う容器本体の側面における前記ピン孔開口位置近傍にこれと平行した縦溝を形成したことを特徴とする請求項1に記載の化粧料容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は化粧料容器に関し、特に容器本体および蓋体の一側部に縦方向に貫通配置されたピンを中心とする旋回操作により容器本体に対して蓋体をすりあわせ状態に開閉できるようにした構造に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 化粧料容器のうち上蓋が容器本体に対して水平旋回して容器本体を開閉する構造のものがある。このものは、容器本体と蓋体の一側部を縦通する縦軸を中心して蓋体を旋回させることで容器本体内部を開閉する構造形式である。この構造形式のものは、蓋体の閉じたときは容器本体に密着して内部の化粧料の飛散等を防ぐとともに、開放時には蓋体が任意の位置で停止する、いわゆるフリーストップ性が要求される。

【0003】かかる要求を満足するための例として、実公平5-35792号公報に示されるように、縦方向の軸部を中心として容器本体の上部に中蓋を旋回可能に装着したものがある。かかる化粧料容器では、中蓋のほかに容器本体の一側部に蓋体が回動可能に取付けられ、蓋体を閉じた状態で中蓋を容器本体上面に押しつけてこれを容器本体に密着させることにより、本体内に収容された化粧料の飛散等を防止する一方で、蓋体を開けた状態では中蓋が容器本体から浮遊し、旋回させやすくするため、軸部外周にバネを配置し、このバネ力により常時中蓋を容器本体から離間する方向に付勢している。またフリーストップ性はバネによる押圧力によって達成される。

10

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、かかる構造では蓋が二重であり、構造が複雑化する。また、この構造では中蓋を常時離間させる方向の力が加わっているため、小形の化粧料容器であって、蓋を単体で構成し、蓋を閉じた状態で容器本体に密着させるという目的には適合できない。

20

【0005】 本発明は、かかる課題を解決するものであり、その目的は、簡単な構造により、旋回操作により蓋を閉じたときは容器本体に密着して内部の気密性を高めることができるとともに、開放時にはフリーストップ性を得られるようにすること、およびひねりなどの蓋の開閉とは別の外力が加わった場合のクッション性を得られるようにした化粧料容器を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 前記目的を達成するため、本発明は、蓋体の一側部下面に縦設したピンを容器本体の一側部に形成されたピン孔に挿通し、該ピンを中心として蓋体を旋回させることで、蓋体をすりあわせ状態に開閉する化粧料容器において、前記ピンの中間部に小径部を形成し、先端部外周にこれより径大であって先端側に向けて先細り状に形成された係止部を一体に形成し、予め拡径部の下部より小径部の外周に弾性チューブを圧入嵌合して前記係止部により抜け止めする一方で、前記ピン孔は、ピンが挿通される軸孔と、該軸孔の下部に連続する下部に拡径部と、該ピン孔および該拡径部の側面に連通し、両者の径より小さな間口幅で容器本体の一側部に開口する側面開口部とからなり、該側面開口部より前記弾性チューブを装着したピンをピン孔に圧入して前記係止部と前記拡径部端面との間に前記弾性チューブを上下圧縮状態に保持したことを特徴とする。

30

【0007】 したがって、以上の構成によれば、構造が極めて簡単で容器本体に対する蓋体の組付けに治具や接着などの手段が不要である。そして、弾性チューブの反発弾性により閉蓋状態では蓋体は容器本体に気密性を高めるように密着し、化粧料の劣化を防止する一方で、開蓋状態では蓋体の引込み方向の弾性力によってフリーストップ性を得ることができる。

40

【0008】 また、本発明では、前記側面開口部形成位置と隣合う容器本体の側面における前記ピン孔開口位置近傍にこれと平行した縦溝を形成したことにより、ピン圧入時に側面開口部が溝を基点として弾性拡開し、ピンを受入れ易くなるため、組付が簡単となる。

## 【0009】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の好ましい実施の形態につき、添付図面を参照して詳細に説明する。図1、2は本発明に係る化粧料容器としての小形コンパクト容器を示す。このコンパクト容器の寸法は、掌に収る程度の小形のものであって、容器本体10と、容器本体10の上面を水平旋回して開閉可能に覆う蓋体20を備えて

50

いる。容器本体10は、着色した合成樹脂射出成形体からなる扁平かつ角が丸みを帯びた概略正方形の容器であって、その上面中央にはこれと相似形状の化粧料収納用凹部11が形成され、内部に化粧料30を充填している。

【0010】蓋体20は、合成樹脂射出成形体からなる容器本体10の外形と同じくほぼ正方形の平坦な透明板であり、その隅角部一カ所の下部には、旋回中心となるピン21が一体に突設されている。ピン21の中間部には小径部21aが形成され、その下部先端には、これよりピン21の径より径大であって、下部側に向けて先細り状に形成された係止部22が一体に設けられている。そして、このピン21の下部からは上部側に向けて弾性チューブ23が圧入嵌合される。嵌合状態では、弾性チューブ23は、小径部21aの外周でその両端を係止部22とピン21の上部に挟持され、弾性圧縮状態に固定される。これに対し、容器本体10の隅角部一カ所にはピン孔12が開口され、下部まで貫通している。

【0011】ピン孔12は、図3に一部拡大して示すように、ピン21が挿通される軸孔12aとこれの下部に形成された拡径部12bとからなっているほか、これらと連通し、軸孔12aの径および拡径部12bの径より小さな間口幅で容器本体10の一側面に開口する取付用開口部14とからなっている。

【0012】以上の構成において、蓋体20を容器本体10に取付けるには、図3、図4(a)の矢印に示すように、予め弾性チューブ23をピン21の小径部21aにはめつけておき、次いで側面開口部14よりピン21をピン孔12側に向けて圧入すると、開口部14を弾性拡開しつつ、ピン21はピン孔12内に嵌合される。完全に嵌合された状態で、開口部14は縮径し、元の間口幅に弾性回復する結果、図2および図4(b)に示すようにピン21は弾性チューブ23とともにピン孔12内に保持される。このとき、弾性チューブ23の上下端は、係止部22の端面と拡径部12bの端面間に圧縮状態に保持され、その反発弾性により、常時ピン21を容器本体10側へ引込もうとする弾性力を作用させ、その結果蓋体20は常時容器本体10の上面に気密に密着する。

【0013】また、図1および図2に示すように、前記ピン21およびピン孔12形成位置とは対角線上の反対側角部において、蓋体20の下面には位置決め用のほぼ半球状突起24が突出形成され、容器本体10の上面にはこの突起24を受入れる位置決め用の窪み15がそれぞれ形成されており、特に図2に示すように、蓋体20の閉蓋位置を位置決めし、両者の正方形形状を一致させている。それ故、閉蓋状態から蓋体20を横方向に開く場合には、窪み15から突起24が抜出す際の軽い抵抗感を伴って開蓋されることになる。その逆に閉蓋時には、突起24が窪み15内に引込まれて軽いショック、或は

10

20

30

40

50

クリック音を伴って安定状態に閉止されるため、正規位置に閉蓋されたことを体感的に確認できることになる。

【0014】なお、開蓋時における蓋体20は任意の位置で静止させることができ、いわゆるフリーストップ性を得られる。これは、弾性チューブ23の弾性によって常時蓋体20を容器本体10側に引寄せる力が作用するからであり、傾けたときなどに不意に移動することによる使用上の不具合も防止できる。また、旋回操作以外の外力、例えばひねりなどの力が加わっても、弾性チューブ23のクッション性によってピン21の折損なども防止できる。

【0015】図5は、本発明の他の実施形態を示す容器本体の部分拡大図である。なお、前記実施形態と同一箇所には同一符号を援用して説明する。この実施形態においては、容器本体10の隅角部に上下を貫通して開口されたピン孔12は、前記と同様、軸孔12aとその下部に連続する拡径部12bおよび、これらと連通しそれぞれの径より小さな間口幅で容器本体の一側面に開口する側面開口部14とからなっている。加えて、側面開口部14の形成箇所と隣合う一側面には縦方向に溝16が形成されている。

【0016】この溝16の奥部中心は軸孔12aおよび拡径部12bの中心に対向し、その溝深さ分だけ肉厚dを他の部位より減少させ、この減少分によって、ピン21の側面開口部14からの圧入時には、溝16を基点として側面開口部14が弾性拡開し易くなり、圧入時の弾性抵抗を減少させている。したがって、本実施形態では、ピン21の圧入時における操作力が小さくて済み、作業性が向上するとともに、作業時のピン21の折損などの事故も未然に防止出来る。

#### 【0017】

【発明の効果】以上の説明により明らかなように、本発明による化粧料容器によれば、簡単な構造により、旋回操作により蓋を閉じたときは容器本体に気密に密着して化粧料の飛散やその劣化を防ぐとともに、開放時にはフリーストップ性を得られるようにしておくこと、およびひねりなどの蓋の開閉とは別の外力が加わった場合のクッション性を得ることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る化粧料容器として例示した小形コンパクト容器の分解斜視図である。

【図2】同コンパクト容器の組立状態を示す断面図である。

【図3】同コンパクト容器の要部を拡大して示す斜視図である。

【図4】(a), (b)は胴コンパクト容器の組立手順を示す部分拡大断面図である。

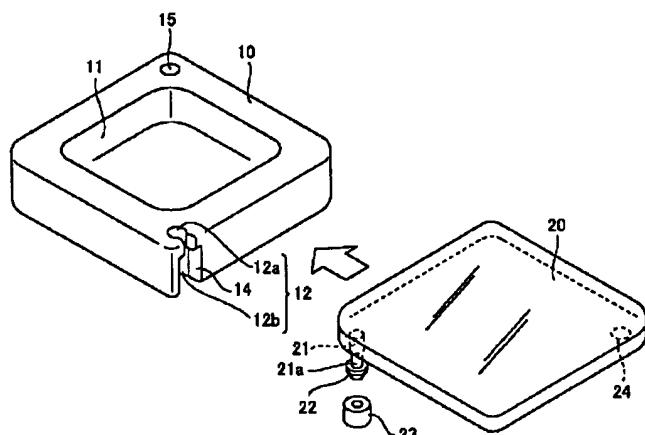
【図5】同コンパクト容器の他の実施形態を示す容器本体の部分斜視図である。

#### 【符号の説明】

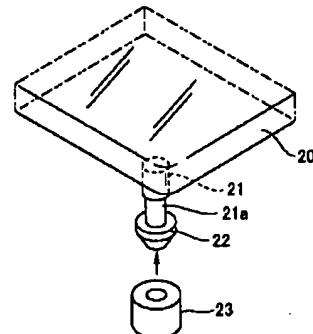
10 容器本体  
11 化粧料収納凹部  
12 ピン孔  
12a ピン挿通孔  
12b 拡径部  
14 側面開口部

16 溝  
20 蓋体  
21 ピン  
21a 小径部  
22 係止部  
23 弾性チューブ

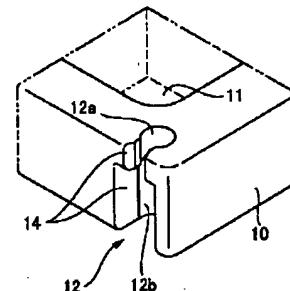
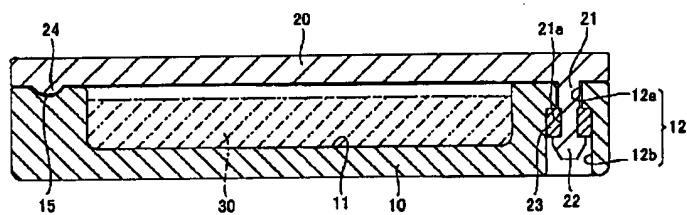
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

【図5】

